

研究だより No. 7

押水第一小学校

令和4年 9月 15日

9月8日 4年研究授業(松本先生)より

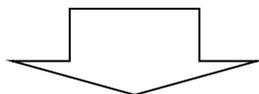
松本先生に算数「わり算の筆算を考えよう」の授業をして頂きました。整理会で成果・課題・改善策について中能登教育事務所指導主事の池島先生より助言をいただきました。

視点1:友達と対話し、課題を解決するために、商の見当をつける際に $84 \div 21$ をいくつとみて考えたのか、話すようにする。

成果	<ul style="list-style-type: none">全体交流の前にペアでの対話を入れることで、全員が考えをペアでも全体でも発表することができていた。ペアでの対話で、児童同士で「なんで?」「でもこうじゃない?」などのように相手の考えに反応したり問い返したりすることができていた。そのことで、考えが深まっていた。
課題	<ul style="list-style-type: none">「見当をつける」という用語を児童に十分に理解させることが難しかった。見当をつけることと答えを出すことの違いが分かっていなかった。情報が多くなると精選することが難しくなるため、どこを深めたいのか、重点とするところを焦点化する必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none">本時のねらいをさらに焦点化して授業を組み立てる。今回の場合は、除法の計算の仕方(見当をつける)、筆算の仕方どちらに重点を置くのかを決めて授業を行えばよい。

視点2:本時の学びを自覚するために、今日の学習で「新しく分かったこと」を中心に振り返りを書かせる。

成果	<ul style="list-style-type: none">既習の掲示や手を使った掲示物(見当をつけるための教具)を準備することで、既習との違いや考えの見通しをもつことができ、それらを活用して本時の課題を解決できたため、練習問題でも、自分で解くことができていた。
課題	<ul style="list-style-type: none">時間があれば、全体で発表した児童の考えを聞いた後に、アウトプットするためにペアでその考えについて説明する時間を設けると、さらに学びの自覚、定着につながる。
改善策	<ul style="list-style-type: none">本時のねらいを焦点化し、情報を精選することで、児童のアウトプットの時間を確保する。



明日から全員が実践すること

◎単元計画を立てる際に、1時間ごとの重点はどこなのかはつきりさせる。